

名古屋国際会議場 雨水抑制施設に関する要求水準

【本施設に関する雨水抑制施設の現在の状況】

流域名：堀川

敷地面積：98,168 m²

緑地等控除面積：22,450 m²

目標貯留浸透量：3,028.7m³ ①

貯留浸透量合計：2,859.6m³（河川課登録数量）

貯留浸透量合計：2,797.7m³（現状）②

※現状 231.0m³（①-②）足りていない ③

＜現状確保できている貯留浸透施設名＞

(1)-1 地下雨水槽：712m³（一号館）

(1)-2 屋外雨水槽：15 m³（一号館）

(1)-3 雨水調整槽：236 m³（一号館）

(2)浸透トレンチ：39.1m³（230m）（3号館北側サンクンガーデン）

(3)透水性舗装：164.6m³（2,352.46m²）

(4)地下貯留槽：1,574m³（2ヶ所）（第4駐車場 1300m³+第2駐車場 274m³）

(5)地下貯留槽：57m³（3号館）

合 計：2,797.7m³ ②

【確保すべき雨水抑制施設】

＜新規計画により無くなる予定の雨水抑制施設＞

・5号館（仮称）建築面積：約 5,000m²+荷解きヤード約 2,000m²=約 7,000m²

緑地面積が減る→ $5,675 \div 100 \times 4 = 227\text{m}^3$ ④

透水性舗装が減る→ $1,325 \times 0.07 = 92.7\text{m}^3$ ⑤

・第4駐車場：1,300m³ ⑥

＜現状足りない施設＞

・231.0m³ ③

＜新しく確保すべき雨水抑制施設の合計＞

・③+④+⑤+⑥=231.0+227+92.7+1,300=1,850.7m³ 確保必要

【本事業で確保すべき雨水抑制施設の要求水準】

本事業においては、上記事項により約 1,850.7m³ の雨水抑制施設を新たに整備することが必要がある。雨水抑制施設の整備においては 5号館（仮称）や第4立体駐車場（仮称）の地下ピット部などに配置することが考えられるが、整備する場所や構造は任意とする。また、計画によっては、新たに確保すべき雨水抑制施設の容量が変わるため、計画に当たっては、既存施設を調査し、事業者により条例を満足する雨水抑制施設を整備すること。